

WTO、OECD関係会合の結果概要

平成20年6月
農林水産省

I WTO非公式閣僚会合

1 日時：6月5日(木) 16:00～18:30、場所：在仏豪州大使館

2 出席者

豪州(クリーン貿易相(議長))、ラミーWTO事務局長、日本(若林農水大臣、甘利経産大臣)、米国(シュワブ通商代表)、EC(マンデルソン委員)、ブラジル(アモリン外相)、インド(ナート商工相)、NZ、カナダ、香港、ノルウェー、スイス、アルゼンチン、中国、メキシコ、トルコ、チリ、南アフリカ等

3 概要

(1) WTO非公式閣僚会合では、今後の交渉のプロセスを中心に議論が行われ、

① この後の数週間が非常に重要であること、

② NAMAなど他の分野でもジュネーブにおいて高級事務レベルによる集中的作業を進めさせること、

③ これに対し各閣僚が十分関与して閣僚会合の開催に向けて準備することを確認。

(2) 若林大臣からは、交渉の内容をしっかりと詰めることが基本であること、今後、食料価格高騰問題をモダリティの議論と併せて議論されるべきであることを主張。

II G10閣僚会合

1 日時：6月5日(木) 9:00～10:00、場所：OECD本部

2 出席者

スイス(ロイタード経済大臣(主催))、日本(若林農水大臣)、ノルウェー(ストーレ外相)、アイスランド、韓国、台湾

3 概要

- (1) G10閣僚会合では、ファルコナー議長の再改訂テキストを踏まえた議論を行い、G10としては今後とも積極的に交渉に参加すること、妥結のためには農業以外の分野の進展が必要であることなどの議論を行った。
- (2) 若林大臣からは、昨今の食料問題を踏まえ、食料安全保障の観点から輸入国の立場を強く主張すべきことを発言。
- (3) これらの意見を踏まえ、G10閣僚会合の共同コミュニケがとりまとめられた(参考3)。

Ⅲ OECD閣僚理事会「成長と繁栄のための主要な挑戦」セッション

1 日時：6月5日(木) 13:30~15:30、場所：OECD本部

2 出席者

フランス(ラガルド経済・産業・雇用相(議長))、日本(若林農水大臣)、豪州(クリーン貿易相)、ブラジル(アモリン外相)、インド(ナート商工相)、スイス(ロイタード経済相)、ノルウェー(ストーレ外相)等

3 概要

- (1) OECD閣僚理事会では、農林水産大臣として21年ぶりの参加。
- (2) 「成長と繁栄のための主要な挑戦」というセッションでブラジル、インドなどの非加盟国も参加して食料問題を議論。
- (3) 若林大臣は、食料価格問題に対し、緊急食料支援や輸出規制の自粛、食料と競合しないバイオ燃料生産、各国の農業生産力の向上など様々な取り組みを総合的に実施する重要性と、OECDがこれまでの知見や経験を生かし、農産物市場の構造的変化に対応した新たな検討を行う必要性を主張し、議長報告に反映された(参考4)。

(以上)